

本授業は、以下の検証を行うものである。

「三角ロジック」を活用して物語を解釈していくことは、作品に対する子供の考えを広げたり深めたりする手立てとして有効であったか。

1 単 元 自分の感じたことを、朗読で表現しよう（教材名「やまなし」資料名「イーハトーヴの夢」）

2 目 標

色彩や比喻等の表現の特色や対比的な作品の構造に気付き、独特な世界観を味わうとともに、作品に対する自分の解釈が伝わるように朗読することができるようにする。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 比喻や反復等の表現の工夫に気付いている。 ○ 読んで感じ取った自分の思いが伝わるように朗読している。	○ 優れた叙述に着目しながら表現の効果を考えている。（読むこと） ○ 読み取ったことを基に、自分の考えを既有知識や経験と結び付けて考えている。（読むこと）	○ 物語の情景や表現方法に興味をもったり、作者の生き方や考え方を知ったりしようとしている。 ○ 優れた叙述から作品の世界観を味わい、朗読に生かそうとしている。

4 単元について

(1) 単元について

本単元は、「作品から感じた世界観が伝わるように朗読する」という言語活動を設定することで、優れた表現を味わいながら読み、作品に対する自分の考えをもつことや、その考えを朗読で聞く人に伝わるように表現しようとする態度を身に付けることをねらいとしている。

教材「やまなし」は、「生と死」、「奪うものと与えるもの」等の観念が、五月と十二月で対比的に表されている文学的文章である。また、比喻や色鮮やかな情景等、宮沢賢治独特の表現の工夫がちりばめられている。そうした宮沢賢治独自の世界観を理解するために、作者の伝記的事実が書かれた資料「イーハトーヴの夢」を重ねて読むことで、作者の生き方にふれ、作者の感じ方や考え方を想像していくことができる。また、「朗読」という言語活動は、相手に向けて自分の解釈で物語を語るという意識が大切であることから、教材と資料、他作品を重ねて読みながら、叙述を基に自分の考えをもち、表現することに適している。

ここでの学習は、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめる単元「登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう」（教材「海の命」）の学習につながるものである。

(2) 子供について

本学級の子供たちは、これまでの文学的文章の学習において、第5学年教材「大造じいさんとガン」の学習で、優れた表現に着目し、作品の魅力を伝え合うために読む学習や、第6学年教材「カレーライス」の学習で登場人物の心情の変化を捉えながら読み、自分の考えを交流する学習を経験してきている。一方、物語とその作者の生き方、考え方を重ねて読みながら物語を論理的に思考し解釈したり、朗読で表現したりすることは難しい。

そこで本単元では、「三角ロジック」を用いて、優れた叙述や作者の生き方や考え方、他の作品を基に自分の考えを広げたり深めたりしながらまとめることで、作品に対する自分の考えをもち、朗読で表現することができるようにする。

(3) 指導について

導入では、モデルとなる朗読を聞かせた後、朗読の工夫や作品の世界観をどのように感じ取ったのかを交流することで、朗読の面白さや朗読で表現する意欲を高めることができるようにする。また、朗読で表現するために解釈で用いた「三角ロジック」を提示することで、解釈の根拠となる叙述や表現へと至った理由を視覚的に捉え、自分の朗読でも活用していきたいという「思いや願い」をもつことができるようにする。その際、指導事項を明確にし、子供たちに読みの視点を示すことで、学習に対する

課題を焦点化することができるようにする。また、資料「イーハトーヴの夢」を重ねて読むことで、賢治の生き方や考え方について知り、解釈へ生かすことができるようにする。展開では、子供たちの読みの課題を基にしながら、五月と十二月の二つの幻灯について自分の考えをもつことができるようにする。その際「三角ロジック」を用いて、自分の主張を裏付けるために、三つの視点（優れた表現、作者の生き方、他の作品）から事実を取り上げることで、その事実に対し、自分の既有知識や経験を理由として意味付けることができるようにする。そうして構築した自分の考えや友達の考えを論理的に伝えたり、理解したりすることで自分の考えを広げたり深めたりしながら再構築できるようにする。終末では、自分の考えた作品の主題が伝わるように朗読発表会を行う。互いの朗読のよさを伝え合うことで、学習に対する成就感や達成感を味わわせることができるようにする。また、単元を通して、繰り返し三つの視点で振り返ることで、学んだことを自覚させたり、次時の学習につなげたり、実生活や実社会の中で生かしたりすることができるようにする。

5 指導計画（総時数 9 時間）

ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

過程	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力		
			言語	情報	問題
課題をつかむ	1 朗読モデルから受けた感想や作品の世界観を交流し合い、単元の学習課題と計画を設定する。 作品に対する自分の思いが伝わるような朗読にするには、どのように読めばよいだろうか。 【態：朗読のモデルを聞き、作品の世界観を感じたり、朗読の工夫を見つけたことで、学習への意欲や見通しをもっている。】	1	キ		ホ
	2 「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の生き方や考え方を捉える。 【思：賢治の生き方や考え方をすることで、賢治の世界観を捉えている。】	2	ス	ハ	
情報を基に考える	3 「五月」の谷川の情景について読み、自分の考えをまとめる。	1	キ	ノ	
	4 「十二月」の谷川の情景について読み、自分の考えをまとめる。	1	キ	ノ	
	5 「五月」と「十二月」を比較して読み、朗読にどのように生かすか考える。 【知：比喻や対比などの表現について理解している。】 【思：具体的に想像しながら表現の効果について考えている。】	1 (本時)	カ	ヌ	
	6 これまでの読みから、作品の主題を捉える。 【思：自分の主張（解釈）と合った事実（叙述）や理由を考えている。】	1	サ	ノ	
主体的に表現する	7 朗読方法を考え、発表練習をする。 【知：作品への解釈や作者の思いが伝わるように朗読をしている。】	1	ケ		
	8 「宮沢賢治」朗読発表会を行い、単元で学んだことを振り返る。 【知：自分の思いや考えが伝わるように朗読をしている。】 【態：賢治の作品に興味をもち、進んで読もうとしている。】 ・ 優れた表現に注目して読むとよい。 ・ 作者の生き方を参考にして読むとよい。 ・ 作者の他の本を参考にして読むとよい。	1	コ		ホ

6 本 時（6／9）

(1) 目 標

「五月」と「十二月」の二枚の幻灯を比べ、共通点や相違点について感じたことを交流し、二つの幻灯をどのように朗読すればよいか自分の考えをまとめることができるようにする。

(2) 評価規準

「五月」と「十二月」の比喻や反復、色彩等の優れた表現に着目し、作者の生き方や作者の他の文学作品などを参考にして、自分の考えをまとめている。 【思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

つかむ・見通す過程では、前時までに学習したことを振り返ることで、これまでに構築した自分の考えを想起することができるようにする。また、「五月」と「十二月」を対比的に板書することで、対比的な読みを通して、作者の世界観に迫るという見通しをもつことができるようにする。

調べる過程では、「三角ロジック」を用いて優れた叙述、作者の生き方や考え方、作者の他の作品という視点から自分の考えを構築し、グループや全体との対話活動を充実させることで、構築した考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

まとめる・生かす過程では、三つの視点で振り返ることで、本時の学びを自覚し、次の学びへの意欲を高めることができるようにする。

(4) 本時の展開

〔 〕 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	10	1 前時までの学習を振り返る。 [・ 五月と十二月の幻灯を読んだよ。 ・ 朗読でどう表現すればよいかな。] 2 五月と十二月の幻灯を比較し、共通点や相違点を見つける。 [・ 五月は、暗く怖い感じがした。 ・ 十二月は優しく穏やかな感じだ。] 3 本時のめあてを確認する。 朗読に込める思いや考えは何を手がかりに考えていけばよいだろうか。 4 教師の補説を聞き、学習の進め方に見通しをもつ。 「五月」と「十二月」は同じ読み方でよいだろうか。 [・ これまでの読みや作者の生き方、他の作品が生かせそうだな。]	○ 前時までの学習を振り返ることで、「やまなし」で取り上げられた二つの幻灯をどのように朗読で表現すれば、賢治の世界観が伝わるのかという課題解決への見通しをもつことができるようにする。 ○ 「五月」と「十二月」を対比的に板書することで、共通点や相違点を見つけ、どのような朗読の仕方が、賢治の思い描いた世界を表現することができるのか、という視点で自分の考えを構築することができるようにする。 ○ 読みの課題を二択にすることで、子供たちの考えや話し合いを焦点化することができるようにする。
調べる	30	5 自分の考えを論理的に構築する。 (1) 一人で検討する。【6分】 [・ 二つは異なったイメージだから、違う読み方で読んだ方がよい。 ・ どちらも「死」をテーマにしているから、悲しい感じで読んだ方がよい。] (2) グループで検討する。【10分】 [・ 「奪われる死」と「与える死」という同じ死をテーマにしているから落ち着いた感じで読めばいいんじゃないかな。 ・ 二つを比較すると、違いが見えてくるよ。だから読み方を変えた方がいいよ。] (3) 全体で検討する。【10分】 [・ 五月と十二月は、季節も違うし、賢治が伝えたい思いが違っているから読み方も変えたらいいと思うな。 ・ 五月は新緑で明るいイメージがあるけど、自然の厳しさも表していると思うな。 ・ 十二月は寒く暗い感じがするけど、やまなしの優しいイメージで読むといいな。] (4) 一人で「三角ロジック」を見直し、付加・修正等をする。【4分】 [・ みんなの意見を聞いて、他の作品から考えてみると朗読にも生かせることに気付いたよ。]	○ 「三角ロジック」を用いることで、主張と事実、理由のつながりを考えながら論理的に自分の考えを構築することができるようにする。 ○ グループ活動では、質問や説明を加えることで、より論理的に表現することができるようにする。 ○ 「やまなし」の叙述だけでなく、賢治の生き方や考え、他の作品という見方から考えることで、多様な考えをもつことができるようにする。 言 ○ グループでの話し合いを取り入れることで、多様な友達の考えを理解し、自分の考えに効果的に反映させていくことができるようにする。 ※ 「五月」と「十二月」の比喻や反復、色彩等の優れた表現に注目したり、作者の生き方や作者の他の文学作品などを参考にしたりして、自分の考えをまとめている。(発言・ワークシート)
まとめる・生かす	5	6 本時の学習の振り返りをする。 (内) 作品を読むには、優れた表現や描写から読むとよい。作者の生き方や考え、他作品からも考えることができた。 (活) グループや全体で検討することで、自分での考えを広げたり深めたりすることができた。 (次) 次は、賢治がこの作品でどんなことを伝えたかったのか深めたいな。 7 次時への見通しをもつ。 [・ 次は主題をとらえてみたいな。 ・ 賢治は何を伝えたかったのかな。]	【思考・判断・表現】 ○ 「学習内容」「学習活動」「次時への意欲や見通し」の三つの視点から本時の学びの振り返りをさせることで、本時の学びを自覚化し、次の学びへ意欲が高まるようにする。 ○ 学習計画表を用いることで、次時の学びへの見通しをもつことができるようにする。

国語科学習指導略案

授業Ⅰ

1年2組 28名 指導者 寺園 麻衣

本授業は、以下の検証を行うものである。
 叙述や挿絵などを手掛かりとし、想像力を広げながら登場人物になりきって物語を読む活動は、
 子供の「思いや願い」を膨らませ、「学びに向かう力」を高める手立てとして有効であったか。

1 単 元 おはなしを たのしもう (教材名「はなの みち」)

2 指導計画 (総時数6時間) ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

過程	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力		
			言語	情報	問題
課題をつかむ	1 聞く人がわくわくするような音読劇にするためには、どのようなことに気を付けて読めばよいのか単元の学習課題や計画を設定する。 【態：場面ごとに話の筋を捉えて話し、音読劇発表会をするという単元の見通しをもっている。】 いちねん にくみ 「せかいに ひとつ だけの 『はなの みち』 はっぴょうかい」を しよう。	1	キ		ホ
情報を基に考える	2 挿絵を並べ替えたり、その理由を話したりする。場面ごとの様子を一文(「だれが」「どうした」の文型)で、まとめる。 【思：話の大体を捉えて、理由付けをしながら挿絵の並べ替えをすることができている。場面ごとに、登場人物の行動などを具体的にイメージし、話のあらすじを捉えることができている。】	1	ア	ヌ	
	3 二の場面と四の場面を比べながら違いを挙げ、季節の変化や動物たちの様子の变化を捉える。 【思：場面同士を比べて、場面の様子や時間の流れを捉えることができている。】	1	キ	ノ	
	4 くまさんや動物たちの心情を想像しながら、どのようなお話をしたのかを考えさせる。 【思：くまさんや動物たちの心情の変化を捉え、話したり、書いたりしている。】	1 (本時)	ク	ハ	
主体的に表現する	5 グループごとに、くまさんや動物たちなどの役割を交代しながら、音読劇の練習をする。 【態：友達と協力して、役割を交代しながら音読劇をしている。】 【思：前時の学習を生かして、本文以外の会話文も入れて音読劇をしている。】	1	セ		
	6 いちねん にくみ 「せかいに ひとつだけの『はなの みち』はっぴょうかい」を行い、発表をしたり、聞いたりした感想を交流する。 【態：音読劇の練習や発表会を通して、叙述から登場人物の心情を想像するポイントを見付け、これまでの学習を振り返ろうとしている。】	1	ス		ホ

3 本 時 (4/6)

(1) 目 標

挿絵に言葉を添えたり、登場人物になりきったりする活動を通して、想像を広げて読む楽しさを味わうことができる。

(2) 評価規準

二と四の場面を比べて分かったことを生かしながら、挿絵に言葉を添えたり、登場人物になりきったりする活動を通して、想像を広げて物語を読んでいる。

【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 指導に当たって

つかむ・見通す過程では、物語の大体や場面構成を確認することで、前時とのつながりをもつことができるようにする。また、どの動物が、どんなお話をくまさんにしていると思うかを問うことで、本時の学習に主体的に取り組むことができるようにする。

調べる過程では、前時の二と四の場面を比べて分かったことを生かしながら、教材文に直接書かれていない動物たちの心情が捉えられるようにする。その際、インタビュー形式をとりながら発表することで、考えの理由を発表することができるようにする。

まとめる・生かす過程では、教材文や挿絵から読み取ったことを基にしたり、場面同士を比べたりすることで、教材文に書かれていない動物たちの様子や心情が想像しやすくなり、物語をより楽しく読めるようになることを実感できるようにする。

(4) 本時の展開

〔 〕 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	5	1 前時の振り返りをする。 2 最後の場面の挿絵を見ながら、どの動物になりきるか考える。 (・ わたしは、りすになりたいな。 ・ ぼくは、きつねになるよ。) 3 学習のめあてを立てる。 くまさんに おはなし するには、 「はなの みち」を どのように よめば よいのだろうか。	○ 前時で学習したことを確認し、学習の見通しをもたせることで、前時と本時の学習課題をつなげることができるようにする。 (言) もし、自分が「はなの みち」に出てくる動物だったら、くまさんにどんなことを話したいかを問うことで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。
調べる	30	4 全文を音読する。 5 前時の学習を生かして二と四の場面を比べながら、自分が選んだ動物の様子を観察し、くまさんへの一言を考える。 (・ 二と四の場面では、うさぎさんの様子が変わっているな。 ・ 出てきた動物たちが増えたな。) 6 考えたことを出し合い、全員の前で発表する。 (・ わたしは、りすになります。 「くまさんの拾ったふくろには、お花の種が入っていたんだね。花がさいてきれいだね。」 ・ わたしは、うさぎになります。 「くまさんのおかげで、お花のかんむりが作れたよ。やっぱり、冬より春の方が、楽しいな。」 ・ ぼくは、きつねになります。 「こんにちは、りすさん。見て、見て。『はなの みち』がきれいだよ。」	○ 本時のめあてをノートに書かせることで、学習の見通しをもち、振り返りにつなげることができるようにする。 ○ 前時で学習したことや、挿絵や叙述から分かったことを基にしながら、自分が動物だったらくまさんにどのように話すかを発表することができるようにする。 ○ 動物のお面を準備することで、子供が動物になりきって発表することができるようにする。 ○ 教師と聞き手(フロア側)と一緒にインタビューになることで、「どの動物になったか」「どんなことをくまさんに言ってあげたいか」「それはどんな理由からか」を発表することができるようにする(発言・ワークシート)。 ※ 二と四の場面を比べて分かったことを生かしながら、挿絵に言葉を添えたり、登場人物になりきったりする活動を通して、想像を広げて物語を読んでいる。
まとめる・生かす	10	(・ ぼくは、かえるになります。 「ゲロゲロ。赤ちゃんがたくさん生まれたから、うれしいな。」) 7 学習のまとめをする。 (・ ことばや えを よく よむ。 ・ ばめんを くらべて よむ。) 8 二と四の場面を音読する。 9 本時の学習の振り返りをする。 (・ お話の中にいるみたいで、楽しかったです。 ・ 他の動物にもなってみたくて思いました。 ・ 自分が動物だったら、どうするかを考えると、お話を楽しく読めると思いました。)	【主体的に学習に取り組む態度】 ○ 板書や設営等を振り返ることで、本時で学習したことをまとめることができるようにする。 ○ 学習のまとめを意識して音読することで、学習の達成感を味わうことができるようにする。 ○ 本時での学習や友達との交流を通して考えたことを振り返ることで、次時の学習に向けての意欲付けや学び合いのよさを実感することができるようにする。 ○ 次時の予告をすることで、音読劇の練習を早くしたいという意欲を高めることができるようにする。

国語科学習指導略案

授業 I

4 年 1 組 3 9 名 指導者 野里 賢志

本授業は、以下の検証を行うものである。
「三角ロジック」を用いることは、自分の考えを論理的に構築するとともに、互いの考えを理解し合うための手立てとして有効であったか。

1 単 元 場面の様子に着目して読み、しょうかいしよう（教材名「一つの花」）

2 指導計画（総時数 8 時間） ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

過程	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力		
			言語	情報	問題
課題をつかむ	1 「読書ポスター」のモデルを分析し、課題を話し合い、単元の学習課題と計画を設定する。 「読書ポスター」で好きな本を紹介するには、どのように読めばよいだろうか。 【態：「読書ポスター」のモデルを見て、教材を通じて心に残ったことを基に、作品を紹介するには、何を学ぶべきか見通しをもっている。】	1	ス		ホ
	2 教材文「一つの花」を読み、文章構成を捉え、読みの課題を設定する。 【態：「文学的文章における読みの七つの視点」を手掛かりにすることで、文章構成を捉え、読みの課題を設定している。】	1	セ	ヌ	
情報を読み取る	3 物語の設定を捉え、人物の行動や会話に着目して、人物の気持ちや世の中の様子、出来事を読む。 4 戦争中の人物それぞれの気持ちや世の中の様子、出来事を読む。 【知：様子や行動、気持ちを表す語句の意味や使い方について理解している。】 【思：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読んでいる。】	1 2	カ キ		
	5 戦後の人物それぞれの気持ちや世の中の様子、出来事について読み、最後の場面が必要かどうか検証する。 【思：自分の主張に合う事実（叙述）や理由を考えている。】 場面の様子や登場人物の気持ちの変化、繰り返し使われている言葉などに注目して読むとよい。	1 (本時)	サ	ノ	
	6 作品ブックリスト（平和に関する本）の中から、紹介したい作品を選び、読書ポスターを作成する。 【態：紹介したい本の内容が伝わるようにポスターをかくている。】	1	ス		
表現する	7 友達の読書ポスターを読み合い、単元で学んだことを振り返る。 【態：友達との読みの交流を通して、読書の楽しさを味わい、進んで読書しようとしている。】	1	コ		ホ

3 本 時（6／8）

(1) 目 標

作品の主題について、自分の考えを論理的にまとめることができるようにする。

(2) 評価規準

場面の様子に着目したり登場人物の気持ちや情景などを読み取ったりして、自分なりの考え（主張）をまとめている。 【思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

つかむ・見通す過程では、前時までの学習を振り返らせることで、最後の場面が必要かどうか検証しながら、作品の主題について考える学習であることを確認できるようにする。そのために繰り返し使われている言葉や場面の様子に注目することで、自分なりの考えをもつことができるようにする。

調べる過程では、一人→グループ→全体と段階を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることで、自分の考えを再構築することができるようにする。また「三角ロジック」を用いることで、自分の考えを構築したり友達と交流したりすることができるようにする。

まとめる・生かす過程では、「学習内容」「次時への意欲や見通し」の視点から本時の学びを振り返らせることで、本時の学びを自覚化し、次の学びへの意欲を高めることができるようにする。

(4) 本時の展開

〔 〕 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	5	1 前時までの学習を振り返る。 〔 ・ お父さんは、一つの花を渡したよね。 ・ 「一つ」は何を表しているのだろう。 〕 2 本時のめあてを確認する。 作品の主題をとらえるには、どのように読めばよいだろうか。 3 教師の補説を聞き、学習の進め方に見通しをもつ。 最後の場面は、必要だろうか。 〔 ・ 戦争中の場面と最後の場面では、どこが違うのだろう。 〕	○ 学習計画表を確認することで、本時の学習への見通しをもつことができるようにする。 ○ 「最後の場面は必要だろうか。」という二択の問いを与えることで、解決したいという「思いや願い」を引き出すことができるようにする。 ○ 場面と比べる際に、共通点や相違点を見付けるという視点を与えることで、叙述や表現技法等に目を向け、主題に迫ることができるようにする。
調べる	3 5	4 自分の考えを論理的に構築する。 (1) 一人で検討する。【10分】 〔 ・ お父さんが渡した一つの花が、いっばいに咲いているから、必要だと思う。 〕 (2) グループで検討する。【10分】 〔 ・ 最後の場面だけに「一つ」という言葉が入っていないよ。だから、最後の場面はなくてもいいと思うな。 ・ 最後の場面は、戦争中のころと比べて明るい表現が多いね。 〕 (3) 全体で検討する。【10分】 〔 ・ 最後の場面は、「平和」を表しているのではないかな。 ・ 作者は戦争と平和を書いていて、平和の素晴らしさを伝えていると思う。 〕 (4) 一人で「三角ロジック」を見直し付加・修正等をする。【5分】 〔 ・ 繰り返し使われている言葉は、作品の主題に関係しているな。 ・ 場面の様子の変化を見付けることで、作品の主題を捉えられるな。 〕	○ 「三角ロジック」を用いることで、自分の考えを論理的に構築できるようにするとともに、互いの考えを論理的に理解できるようにする。 言 グループでの話し合いを取り入れることで、互いに質問し合ったり、友達の考えを理解したりして、自分の考えに効果的に反映させていくことができるようにする。 ○ 全体で考えを検討する際、最後の場面と戦争中の場面を対比させることで、作品の主題を見付け出すことができるようにする。 ※ 対比的な表現に着目したり、登場人物の気持ちや情景などを読み取ったりして、自分なりの考え（主張）をまとめている。 (発言・ワークシート)【思考・判断・表現】 言 全体で共有した考えを基に自分の考えに変化があれば修正することで、多様な友達の考えを理解し、自分の考えに効果的に反映させていくことができるようにする。
まとめる・生かす	5	5 本時の学習の振り返りをする。 (内) ・ 繰り返し使われている言葉に注目するとよいことが分かった。 ・ 主題の捉え方はそれぞれだけど、場面の様子に注目すると、捉えることができることが分かった。 (次) 自分が読んでいる本で、「読書ポスター」を作成したい。 6 次時への見通しをもつ。 〔 ・ 読書ポスターの内容に、自分なりの主題も載せたいな。 〕	○ 「学習内容」「次時への意欲や見通し」の視点から本時の学びの振り返りをするすることで、本時の学びを自覚化し、次の学びへの意欲が高まるようにする。 ○ 学習計画表を確認することで、次時の学びへの見通しをもつことができるようにする。 ○ 並行読書している本の主題を捉えることで、読書ポスターの内容が分かりやすくなることに気付くことができるようにする。